

令和7年度　　おらほのまちづくり支援事業　実施事業一覧

No.	区分	事業名	団体名・代表者名	交付額（円）	事業概要	成果
1	総合戦略	子育てしやすい町づくりへの取り組み、南三陸の子ども・子育て情報発信事業	南三陸子育てハッピープロジェクト 代表 内ヶ崎　彩	433,000	【目的】 南三陸町総合戦略　基本目標1 「私たちは 豊かな自然のなかで　ともに支えあい世代をつなぎます」 施策1-2　出産・子育てがしやすいまちづくり 目標1【まちの子育て情報を当事者視点で整理し、子育て中の世代に届ける】 目標2【まちの子育てが楽しくなる】 目標3【まちの子育て仲間を増やす、子育てしやすい町づくり】 【内容】 ・子育て仲間を増やす、子育てしやすい町づくり ・SNSを活用した子育て情報の発信「みなはびInstagram」 ・子育てイベント「みなはびひろば」 ・子育てに関する意見交換会「みんなで子育て作戦会議　しゃべりば」 ・みんなで一緒に行ってみるお出かけ日「いってみっぺ」 ・公民館活用の試行「公民館であそぼう」 ・子どもたちの移動手段の解消に向けて「乗ってみっぺ」 ・南三陸町や関係団体との定期的な意見交換、先進地視察 ・子どもの意見を聞く「こどものしゃべりば」	「南三陸で子育てするみんながはッピーに」という想いのもと、町全体で子育てを応援する空気づくりに取り組んだ。 ・交流の場づくり 「みなはびひろば」や「いってみっぺ」等へ延べ330名以上が参加。親子の居場所だけでなく、世代を超えた交流を生み出した。 ・情報発信の強化 Instagramフォロワーが1年で約200名増加し、子育て世代へ必要な情報が届く仕組みが定着した。 ・声をカタチに 「しゃべりば」で出た意見を、デマンド交通体験会や公民館の試行利用へと即座に繋げ、行政と住民の橋渡し役を担った。高校生や地域ボランティアの協力も増え、地域全体で子どもを見守り、子育てを支える雰囲気作りに貢献した。
2	総合戦略	【森里海ひと】地域資源活用の普及啓蒙事業	南三陸を化石で盛り上げる会　Hooks 代表 高橋　直哉	876,000	【目的】 2025年がウタツギョリユウ化石「歌津館崎の魚竜化石産地及び魚竜化石」として国の天然記念物に指定されてから50年の節目となり、南三陸町主催の化石関連のイベントが計画されていることから町主催のイベントをサポートする独自の連動企画を開催、地域資源である化石の魅力の普及・啓蒙に繋げる活動を行う。 「森・里・海・ひと」南三陸町の様々な資源を活用した、町内に向けた普及啓蒙の活動を通じ、①町民が地域資源の必要性和活用方法について考えるきっかけとなる取組み、②南三陸町の強みである観光業での実践に繋げていく事を目的とする活動を行う。 【内容】 ・ぬりえ展覧会開催 ・普及啓蒙のためのワークショップや展示会の開催 ・地元向け普及啓蒙のための体験ツアー開催 ・みなみさんりく発掘ミュージアム実証実験（化石展示・ワークショップ、産直、木育体験）	・ぬりえ展覧会開催　展示作品数406作品 ・普及啓蒙のためのワークショップや展示会の開催　参加者（常設展示除く）548名 ・地元向け普及啓蒙のための体験ツアー開催　参加者13名 ・みなみさんりく発掘ミュージアム実証実験（化石展示・ワークショップ、産直、木育体験）　参加者299名
3	全町的	南三陸スイーツ創生プロジェクト	南三陸スイーツ協会 会長 大沼　ほのか	747,000	【目的】 南三陸町の事業者が持つアイデアやノウハウを活かして、生産者が大切に育てた素材や、南三陸の魅力を乗せて、南三陸ならではのオリジナルスイーツの開発と普及を目指す。 【内容】 南三陸町は、美しい自然と豊かな食文化に恵まれた地域であり、農林水産物が注目される中で、スイーツ業界にも優れた人材が携わっている。イベントやワークショップを通じてスイーツ文化を育み、スイーツ業界の持続的な発展とレベルアップを図ると共に、地域振興にも貢献していく。そしてスイーツには人々に笑顔をもたらし、人々の交流やコミュニケーションの架け橋になり得る味力（魅力）を秘めていることから、さらなる交流人口増も期待できる。 このことにより、事業の継続性が確保されることで事業者た生産者の担い手が安心して意欲的に事業に取り組める環境ができ、南三陸町の後継者育成（いのちめぐるまち南三陸の実現）にも寄与する。	・スイーツピクニック（2025年8月9日～10月26日） 桃（8月9日～8月31日）、ぶどう（9月13日～9月28日）、リンゴ（10月11日～10月26日）の期間でフェアを実施。お客様、飲食店、農家さんにとって初めての試みで手応えを掴んだ方が多い印象でした。今後も継続していく方向性です。 ・参加者アンケート結果抜粋（18店舗中10店舗回答） スイーツの提供数　2,221個（桃840個、ぶどう729個、リンゴ652個）
4	全町的	農業体験受入態勢整備事業	入谷の里山活性化協議会 会長 阿部　國博	315,000	【目的】 ・里山の様々な体験プログラムを造成・発展させ、教育旅行や体験学習の受け入れを促進していく。 ・地域全体で一度に100人の子どもたちを受入れることができる体制をつくり、交流人口を増やしていくための仕掛けを積み重ねながら、地域に経済効果をもたらししていく。 【内容】 ・里山の魅力を高めるため、食をメインとする体験イベントを継続的に展開し、地域の受入態勢づくりに努めた。 ・里山体験のメインとなる農業体験受入が弱体化していることから、集合体験できる農場の適正な維持管理を図りながら、教育旅行や体験学習などの受入態勢づくりに努めた。 ・「入谷・山の学校」は、“山”をキーワードに様々な視点から楽しく体験して学べる交流イベントを開催した。	本事業を通じて、学校団体及び一般参加者を対象とした里山体験プログラムを継続的に実施し、少なくとも161名の受入体験につながった。教育旅行や体験学習の実践を通じて、地域としての受入経験の蓄積と体制整備が進み、里山の魅力を活かした交流人口の拡大に向けた基盤づくりが前進した。また、体験農場の維持管理を通年で行ったことで、集合型農業体験を安全かつ継続的に受け入れるための環境整備につながった。「入谷・山の学校」では、自然、歴史、ものづくり、食を組み合わせた地域ならではの学びの機会を提供でき、地域住民の関わり場のつくりと今後の持続的な事業展開に向けた手応えを得ることができた。改善すべき点も確認されたが、今後は内容を見直ししながら、より魅力的な体験プログラムへ発展させていく。
5	全町的	里山文化交流事業	入谷の里山活性化協議会 会長 阿部　國博	700,000	【目的】 ・演劇や落語、映画などの本物の文化・芸術に接してもらい、住民の福利厚生を図りながら、文化芸術の意識が高まる里山地域づくりにつなげていくこと。 ・老若男女の世代間交流が生まれ、文化的な里山地域になっていくきっかけにしていく。 【内容】 ・入谷に伝わる代表的な民話「ばば山」を基にアレンジした創作演劇作品を観る演劇会を、9月17日に特別養護老人ホーム慈恵園で高齢者向けに開催し、11月28日・29日にはひころの里で町民向けに開催した。 ・大好評で定着しつつある落語会を11月16日にひころの里を会場に午前・午後の2公演を行い、11月17日には入谷小学校を会場に低学年・高学年向けに実施した。 ・好評である映画交流会を1月11日YES工房第二工場において映画交流会を盛大に開催し、新春文化行事の一環として地域住民の交流の場としての機会をつくった。	本事業を通じて、演劇、落語、映画などの文化芸術に触れる機会を地域に創出し、住民の福利厚生の実と文化意識の醸成を図ることができた。各事業の参加者は延べ282名となり、高齢者、小学生、一般住民などの幅広い世代の参加があった。継続的に開催している落語会では常連参加者も見られ、地域への定着が進んでいる。演劇会、映画交流会も好評で、世代間交流と地域の賑わいづくりに寄与し、文化的で元気な里山地域づくりのきっかけとなった。
6	総合戦略	南三陸町自然史普及推進事業	南三陸ネイチャーセンター友の会 会長 山崎　浩子	933,000	【目的】 ・子ども達と自然史研究者が出会う場を町に創出し、体験できる場を提供することで、故郷の自然史への興味関心を深め、大人世代にも多角的な視点から町の魅力を発見する機会をつくる。また「南三陸自然環境活用センター」の本設に伴い、南三陸町内向けの普及支援活動も併せて本事業の目的とする。 【内容】 ・南三陸子ども自然史ワークショップ2025 町内外の学識者・有識者を交え、南三陸町内の自然史の魅力を幅広い世代に伝える。 ・自然史探検隊 南三陸町内の子ども達に故郷の自然に直にふれる体験学習の機会を提供する。 ・南三陸自然史講座（普及活動） 南三陸町自然環境活用センター及び南三陸自然史の普及支援。	・南三陸子ども自然史ワークショップ2025 第16回目となる今回は、ウタツギョリユウ化石天然記念物国指定50周年記念式典との同時開催という形式で南三陸町教育委員会特別協力の元、南三陸町スポーツ村（バイサイドアリーナ）にて開催した。58名のスタッフが参加し、204名の来場者を迎えることができた。 ・自然史探検隊 「化石を発掘しよう！」26名、「船に乗って海鳥を見よう！」10名、「春の磯で海藻を探そう！」15名の3回講座を行い、延べ51名の参加者を受け入れた。地域行事との日程調整が難航したが前年度の参加人数9名を上回る結果となった。 ・南三陸自然史講座 南三陸町自然環境活用センター及び南三陸自然史の普及支援事業として、継続実施した。企画の厳選及び会場の選定等に時間を要し、2025年2月の開催以来8ヶ月の期間が経過することとなり、結果目標である4回の開催を行う事が出来なかった（開催2回・参加者56名）。参加人数としては、昨年同様（59名）の来場者を迎えることができた。
7	公益活動	南三陸町内の子どもたちとの共同による田んぼ及び周辺環境の生物多様性勉強会・自然共生サイト登録地拡大事業	童子下いきもの研究会 代表 阿部　博之	299,000	【目的】 生物多様性保全・持続可能な地域農業・地域社会に貢献する。 【内容】 自然共生サイトを題材に地域の環境循環を南三陸高校生たちと専門講師を招いて講義を聞き、それを基に生物多様性について学び、考える機会を共有。取り組みを通じて町内の小中学生向けにいきものや地域環境を考えるキッカケとなる冊子を共同で作成する。	・入谷小学校と童子下集落の「いきもの観察会」に補助として参加。田んぼ及び周辺のいきもの採集を行った。希少種の個体が数多く発見された。 ・南三陸高校で生物多様性に関する授業を実施。 ・南三陸高校のエコシステムクラブ活動で講義を実施。（生物多様性を保全する意義、自然共生サイトの概要、3つの多様性に関する講義。多様性への理解を深めるための講義。） ・おらほの自然共生サイトを知ろう！ガイドブック完成。
8	公益活動	林際カーシェア会地域コミュニティ活性化事業	林際カーシェア会 会長 山内　太一	261,000	【目的】 地域住民が車を共同で活用することによって、住民同士がお互いに助け合う地域づくりを行うことを目的とする。 【内容】 ・サロン活動 ・買い物ツアー活動 ・お出かけツアー ・外出支援活動 ・遊休農地を活用し地域内外交流	・サロン活動：2回（20人） ・買い物ツアー活動：30回（37人） ・お出かけツアー：1回（7人） ・外出支援活動：15回 ・遊休農地を活用し地域内外交流：6回（約80人） ※補助対象期間外含む。